

仕事常識



時間を創る ⑥

川本 裕子さん
マッキンゼー・シニア・エキスパート

私のビジネステク

「システムトラブルが起こつたら現場にすぐさま直行。事故の原因をつきとめ、修復するだけでなく、顧客や会社、メディアへの連絡をすぐに丁寧におこなうことがカギ」（システム会社

タイミニング逃さず「集中投資」

の幹部)

「不祥事が報道されたとき、一日目は『わからない、調査中』でもよいが、二日目には原因と今後の対応策が正確に公表できないとアウト」（大企業広報担当者）
「ほとんどの社員は自社の合併を新聞で知る。かれ

らに当日、誠意を持って直接語りかけないと、社員のロイヤルティは急速に崩れる」（企業合併の専門家）

「国有化されたあとの現場の疲弊と顧客の離散による資産の劣化を防ぐためには、最初の一カ月間が勝負」（旧長銀の若手）

いずれも、変化・事件の直後の集中的対応の重要性を言っています。時間管理

た時間と資源を投入せず、問題解決を先送りしたからです。

ビジネスに限りません。家族や親しい人の病気と

き、人はいくらでもそばにいたいと思ひ、一緒にいることの大切さを痛感します。

効率的に使つという意味

で、時間の「質」は大事ですが、どうしても一定量以上の時間をかけることが必要場合もある。

「量より質」ではなく、「量も質も」必要という場合です。新規事業、会社での後輩の育成、家庭での子育てなど、ある局面で集中的に「目をかけ、声をかけ、手をかける」ことがどうしても必要になります。

「時間の選択と集中的使い方」の決断は、仕事でも人生一般でも大きな課題です。

日本がこれほど金融問題を長引かせているのも、一九九〇年代初期にまとまっ